

2020年8月30日

長野県出身のプロ野球選手列伝 (NO2)

上原 昇 (2組)

昔は長野県の甲子園の常連は松商学園と決まっていた、同校の通算の甲子園出場は春夏合わせ 52 回を数えるという。私の小学校時代から同年の遊び仲間の T 君は上田一中の野球部時代からピッチャーとして注目される存在であった。180cm を超える長身から剛速球を投げ込んでいた。高校進学は当然、上田近辺の野球の強い学校と思っていたが、松商学園からの強い勧誘で松本へ行った。我々は甲子園での T 君の勇姿を心待ちにしていたものだが、残念ながら 1 年生の時に肘を壊して選手生命を全うすることなく終わった。上田ではお山の大将的存在だったが、全県規模の松商学園での競争は厳しかったのであろう。夏の高校野球が始まると、特に松商が出場した年などは、T 君のことを思い浮かべる。最近では、佐久長聖や上田西といった新興高校の活躍が目立つが、こうしたチームの中から有望な野球人が巣立っていくことだろう。

1. 不運の荒川、不振の堀場

- ◆荒川 (出澤) 堯 たかし (1947～) は佐久市岩村田出身、巨人の荒川コーチに見込まれ養子となり、早稲田実業高校に進学、早大では三塁を守り長嶋二世と呼ばれ活躍。たまたま筆者もそのころ、早稲田の学生であったので、当時の安倍球場 (1987 年閉鎖) で荒川の姿を目にしたものである。ドラフトでは大洋から指名を受けるも拒否。これを根に持った暴漢に襲われ、怪我を負う。いろいろとあって、結局ヤクルトに入団するも目の後遺症もあり、5 年で引退する不運のプロ野球人生であった。
- ◆堀場秀孝 (1955～) は、上田市出身、丸子実業高校 (現丸子修学館高校) では捕手として春夏 3 回の甲子園出場。慶応大学でも活躍後、プリンスホテルで社会人野球を経て、広島東洋カープに入団。その後、横浜大洋、巨人と球団を変えるが。プロ選手としての活躍の機会は少なかった。プロ野球退団後は政治家に転身し、2011 年には長野県議会議員に当選、2 期務めるが 2019 年の選挙では落選した。

【写真 1: 荒川堯 (左) と堀場秀孝 (右、大洋時代)】



2. 活躍した日ハムの上田、中日の川井、楽天の聖澤

- ◆上田佳範（1973～）は松本市出身、松商学園では投手として甲子園選抜大会に出場し準優勝。大型ピッチャーとして期待を背負い日本ハムに入団、途中から野手に転向し、1997年には3割を記録する。現在、DeNA ベイスターズの外野守備・走塁コーチ
- ◆川井 進〈登録名：雄太ゆうだい〉（1980～）は佐久市出身、上田西高校を出て、大東文化大学、日本通運を経て、2005年中日に入団して10年間、投手として息の長い選手生命であった。2009年には開幕以来11連勝して同年オールスター戦にも出場した。
- ◆聖澤 諒ひじりさわりょう（1985～）は更埴市（現千曲市）出身、松代高校から國學院大進学、楽天に入団後は、俊足を生かして2012年には54盗塁を記録して盗塁王となる。2018年に現役引退し、現在は野球解説者として活動中

【写真2：上田佳範（左）、川井進太（中）、聖澤諒（右）】



3. 長野県出身のプロ野球選手、幻のベストナイン

これまで登場してきた選手たち、1909年（明治42年）生まれの中島から1985年（昭和60年）生の聖澤まで16人紹介しているが、で幻のベスト9を組んでみた。あくまでも、筆者の遊び心であり、（括弧）は控えということでご容赦を。

- ▲ピッチャー： 堀内（川井）・・・投手陣が手薄なので上田も控えで
- ▲キャッチャー： 倉島（堀場）・・・倉島にはチームの要を
- ▲ファースト： 岩下（木次）・・・木次もこのチームなら活躍しそう
- ▲セカンド： 塩原（中村）
- ▲サード： 荒川（小森）・・・小森の華麗な守備も見てみたい
- ▲ショート： 土屋・・・セカンドが本職だが、巨人の初めはサード
- ▲レフト： 町田・・・豪快なホームランを期待
- ▲センター： 聖澤（上田）・・・上田は投手も兼ねて
- ▲ライト： 中島・・・重鎮は監督兼任で、不動の4番を
- ▲ピンチヒッター：三沢・・・ファーストが本来のポジション
- ▲アンパイア： 丸山

《先発打順》

1 聖澤、2 土屋、3 荒川、4 中島、5 町田、6 岩下、7 塩原、8 倉島、9 堀内

4. 現役では・・・(番外も)

最近、長野県出身で活躍している選手について、ほとんど聞かないのが寂しい。ただ、本原稿を書き終えた8月末、たまたまTVで巨人対中日戦を観戦していたら、巨人の先発で直江大輔投手が登板していた。直江は、長野市出身、松商学園を出て、昨年ドラフト3位で入団。当日はプロ2度目の登板で惜しくも4回降板となったが、期待の2年目である。

【写真3:直江大輔】



前述の上前淳一郎著『巨人軍 陰のベストナイン』にはこんな記述がある。

「伝統的な教育県である長野では、特に高校野球もまた全人教育の一環とする傾向が強く、人を押しつけて頭を出そうとするものは嫌われ、チームの和が尊ばれる。信州がプロ球界に傑出した人材を送っていない理由の一つはここにある」と。今でもそうかなと思うところもあるが、どうであろう。

番外として最後に、長野県出身ではないが長野県の高校を卒業して、プロ野球で活躍中の現役選手を2名紹介しておきたい。金子と菊池である。昔と違い、強豪校は地元だけでなく全国から有望選手をリクルートしていると聞く。長野県出身という意味も薄れていくようだ。

- ◆金子千尋(登録名: 式大ちひろ)(1983~)は新潟県三条市出身、長野商業高校からトヨタ自動車を経てオリックス入団、現在は日本ハムに所属。37歳になる今シーズンも活躍中で、通算129勝をあげている。
- ◆菊池涼介(1990~)は東京都東大和市出身、塩尻市の武蔵工大二高(現東京都市大塩尻高)、中京学院大を経て、広島に入団。メジャー挑戦も話題になる名二塁手である。

【写真4: 金子千尋(左)、菊池涼介(右)】

